

「里山レンジャーのロマン紀行 No.17 10月3日～10月25日」



←ギョリンソウモドキ

ギョリンソウ (No.1 参照) とそっくりですが、春先に顔を見せるのがギョリンソウ、秋のものはギョリンソウモドキです。前者は群生しますが、後者は数がとても少ないのが特徴の1つです。

種はゴキブリが運びます。

ツルニンジンとスズメバチ →

ツルニンジン (再掲) の花にスズメバチがやってきています。花の内部はつるつるしており、アリがやってきても滑り落ちるようになっているとのこと。スズメバチには花粉を運んでもらうために受け入れているようです。



← ヒヨドリバナとチョウ

長距離を移動することで知られるアサギマダラを呼ぶ花です。秋の七草の1つフジバカマはヒヨドリバナ属に属します。

アサギマダラは、この時期、極たまに見かけますが、今は写真のチョウが多く飛んでいます。ヒヨドリバナがもっと増えると、アサギマダラも旅の途中に立ち寄ってくれるのではと期待しています。



←クロバナヒキオコシとハチ

クロバナヒキオコシ (再掲) はスズメバチが好む花です。小さな花に大きな体のハチの取り合わせにはちょっと目を止めてしまいます。

アメリカセンダングサ→

アメリカ原産で、昭和初期では珍しかったが、現在では北海道を除いて各地の湿り気のある荒れ地や道端に普通の雑草になっています。

当施設内では、初めて観察されたので掲載しました。



ポントクタデ



ヤナギタデ



イヌタデ

当地に生育する3種類のタデ類を紹介します。

葉に辛味があり、「タデ食う虫も・・・」と言われるのはヤナギタデです。他の2種類の葉に辛味はありません。



← これは丹精込めて栽培中の里芋です。

この葉の状態は虫の害ではありません。10月25日の朝方に雹が降り、出勤時においてもまだ芝生の上に残っていました。

芋の入り具合が心配でしたが・・・。

10株すべてから十分に収穫することができ、11月6日のイベントでの「いも煮」に供することができそうで一安心しました。



一方、左写真は同じ畑で栽培中の白菜です。

玉が大きくなるために必要な外葉が雹被害に遭い、とても残念な思いです。「いも煮」に少しでも入れることができればよいのですが・・・。

「自然」とどのように向き合っていくのか、ちょっと立ち止まって考えるひと時でした。